



2020年9月
ついに完結！

山口仲美著作集 全8巻

日本語の研究&エッセイの集大成！

ユニークな発想のもとになる自由奔放なテーマ
そのテーマを手堅く攻めていく実証的手法
まさに千変万化
読んでいて飽きないところが、この著作集の見どころである

- A5判・上製力バー装
- 各巻平均665頁
- 総頁5,316頁
- 各巻 本体5,800円＋税
- 揃価 本体46,400円＋税（分売可）

風間書房

【著者略歴】
山口仲美（やまぐち なかみ）
一九四三年静岡県生まれ。お茶の水女子大学卒業。
東京大学大学院修士課程修了。文学博士。
現在―埼玉大学名誉教授。
専門―日本語学・日本語史・古典の文体・オノマトペの歴史）
著書―『平安文学の文体の研究』（明治書院、第12回金田一京助博士記念賞）、『平安朝の言葉と文体』（風間書房）、『日本語の歴史』（岩波書店、第55回日本エッセイスト・クラブ賞）、「犬は「びよ」と鳴いていた」（光文社）、「日本語の古典」（岩波書店）など多数。
二〇〇八年紫綬褒章、二〇一六年瑞宝中綬章受章。
専門分野関係のテレビ・ラジオ番組にも多数出演。



- ◆お近くの書店様へ、本パンフレットをご持参の上ご注文ください。
- ◆お急ぎの場合、弊社に直接ご注文ください。お電話、FAXまたはメールにて承ります。

山口仲美著作集

全8巻

各巻 本体5,800円＋税
揃価 本体46,400円＋税（分売可）

1	言葉から迫る平安文学 1	源氏物語	ISBN978-4-7599-2237-0 本体5,800円 (2018.10)	() 冊	
2	言葉から迫る平安文学 2	仮名作品	ISBN978-4-7599-2238-7 本体5,800円 (2018.10)	() 冊	
3	言葉から迫る平安文学 3	説話・今昔物語集	ISBN978-4-7599-2258-5 本体5,800円 (2018.12)	() 冊	
4	日本語の歴史・古典	通史・個別史・日本語の古典	ISBN978-4-7599-2284-4 本体5,800円 (2019.5)	() 冊	()
5	オノマトペの歴史 1	その種々相と史的推移 「おべんちゃら」などの語史	ISBN978-4-7599-2294-3 本体5,800円 (2019.10)	() 冊	セット
6	オノマトペの歴史 2	ちんちん千鳥のなく声は 犬は「びよ」と鳴いていた	ISBN978-4-7599-2297-4 本体5,800円 (2019.12)	() 冊	
7	現代語の諸相 1	若者言葉・ネーミング・テレビの言葉ほか	ISBN978-4-7599-2328-5 本体5,800円 (2020.5)	() 冊	
8	現代語の諸相 2	言葉の探検・コミュニケーション実話	ISBN978-4-7599-2335-3 本体5,800円 (2020.9)	() 冊	

お名前

書店名（番線印）

ご住所 〒

電話番号

E-mail

風間書房

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
電話 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757
<https://www.kazamashobo.co.jp> E-mail pub@kazamashobo.co.jp

2020.9

未開の研究分野に挑戦し続けた日本語学者 山口仲美の軌跡！

古典の文体・コミュニケーション研究、オノマトペの歴史研究では、独壇場！



全8巻の構成

第1巻	言葉から迫る平安文学Ⅰ 源氏物語
第2巻	言葉から迫る平安文学Ⅱ 仮名作品
第3巻	言葉から迫る平安文学Ⅲ 説話・今昔物語集
第4巻	日本語の歴史・古典 通史・個別史・日本語の古典
第5巻	オノマトペの歴史Ⅰ その種々相と史的推移 「おべんちゃら」などの語史
第6巻	オノマトペの歴史Ⅱ ちんちん千鳥のなく声は 犬は「びよ」と鳴いていた
第7巻	現代語の諸相Ⅰ 若者言葉・ネーミング テレビの言葉ほか
第8巻	現代語の諸相Ⅱ 言葉の探検 コミュニケーション実話

1 言葉から迫る平安文学Ⅰ

二〇一八年一〇月刊
六一四頁

著作集1・2・3『言葉から迫る平安文学』三巻は、言葉や文体、表現やコミュニケーションといった言語学的な立場から平安文学の諸問題を解明する。

第一巻のテーマは「源氏物語」。三部から成る。

Ⅰ部は、『源氏物語』男と女のコミュニケーション。『源氏物語』に登場する男と女は、どんなコミュニケーションをとっていたのか？ 現代に応用できるコミュニケーション論は、きつとあなたの役に立つ。

Ⅱ部は、『源氏物語』の言葉と文体。比喩や象徴詞（「オノマトペ」や形容語などに注目して、『源氏物語』独自の問題を解明した論を収録。

Ⅲ部は、「文章・文体研究の軌跡と展望」。『言葉から迫る平安文学』三巻に収録した論文に一貫する著者の立場は、語学的文体論。そうした文章・文体研究についての解説と展望を収録。この分野の草創期を知る上でも重要な論説。

2 言葉から迫る平安文学Ⅱ

二〇一八年一〇月刊
六一四頁

著作集1・2・3『言葉から迫る平安文学』三巻は、言葉や文体、表現やコミュニケーションといった言語学的な立場から平安文学の諸問題を解明する。

第二巻のテーマは、「仮名作品」。平安時代の仮名で書かれた『源氏物語』以外の日記・随筆・物語を対象としている。四部から成る。Ⅰ部は、導入部的な論。

Ⅱ部は、「物語と日記の言葉と文体」。平安文学作品全体の文体にかかわる問題と、竹取物語・和泉式部日記といった個別の作品の言葉と文体にかかわる問題をあざやかに解明。

Ⅲ部は、『枕草子』新しい読み方。『枕草子』をマナー集として読むという新しい読み方を提示し、『枕草子』の魅力を味わう。

Ⅳ部は、「研究余滴」。仮名文学作品を読んでいて、疑問に思ったこと、感動したこと、主張したくなったことなどを、エッセイ風にまとめたものを収録。

3 言葉から迫る平安文学Ⅲ

二〇一八年一二月刊
五四八頁

著作集1・2・3『言葉から迫る平安文学』三巻は、言葉や文体、表現やコミュニケーションといった言語学的な立場から平安文学の諸問題を解明する。

第三巻のテーマは、「説話・今昔物語集」。説話文学全般およびその中で傑出している『今昔物語集』を対象に、言葉や文体あるいは表現方法を追究した巻。三部から成る。

Ⅰ部は、「説話文学の言葉と文体」。直喩法などの表現技法に的を絞って、従来とは違った出典文献との比較という方法で手堅く『今昔物語集』の文体に迫った論などを収録。

Ⅱ部は、『今昔物語集』の表現方法。『今昔物語集』の表現方法に着目し、読者を魅了してやまない表現方法の秘密を明らかに。

Ⅲ部は、『今昔物語集』にみる生きる力。読者に勇氣と生きる力を与えてくれる話をセレクトし、原文・現代語訳・解説を行ない、『今昔物語集』の持つエネルギーをあぶりだす。

4 日本語の歴史・古典

二〇一九年五月刊
六三三頁

著作集4『日本語の歴史・古典』は、日本語の史的推移を追究した著書や論文を収録したもの。

Ⅰ部は、『日本語の歴史・通史』。日本語はどんなふうに進んで、現代にいたったのか？ 日本語の将来を担うすべての人々にむけて、その史的推移をわかりやすく解説。

Ⅱ部は、『日本語の歴史・個別史』。日本語を文体、語彙、命名、翻訳語という個別的な観点からクロースアップして、その史的推移を解明。日本人の感覚・感情のあり方、その時代の志向などを浮き彫りにする。

Ⅲ部は、『日本語の古典』。言葉や表現といった今までとは違った日本語学的な切り口から、古典作品を通史的に取り上げ、その魅力を解き明かす。

この巻は、遠い昔の日本人の熱い血と切なる思いをお伝えできることを願って執筆されている。

著作集全巻の完結にあたって

予定通り、著作集全巻が二〇二〇年秋に完成した。途中で、疲れて顎を出してしまったこともあるが、ともかく予定通りに刊行できた。私を脅かす臍臓がんも暴れることなく静かに著作集の刊行を見守ってくれた。夢のように思える。

著作集のような全貌の見渡せる著作物を作ると、自分がどんなスタンスをとって研究を進めてきたのかを客観的に俯瞰できるようになる。自分には、次のような二つの傾向が顕著だったように思う。

第一に、従来の国語学では研究されていないテーマを研究対象にする傾向である。古典の文体研究、オノマトペの研究は、その典型。ほとんど研究されていない分野であった。その他、古典におけるコミュニケーション研究、あだ名や売薬名といった命名の研究も、ほとんど注目されていなかった。未開拓分野の研究は、自分で問題を見つけ、解決する方法を考え、調査し、解明していく必要がある。実は、それが、私にとっては、このうえなくワクワクすることだったのである。

第二の自分の傾向は、論文だけではなく、一般向けの発信も行なうことである。論文を書いてみると、一般の人にも知ってほしいと思うような面白い事実が明らかになることがある。すると、私は、論文集の形ではなく、リライトして一般向けの本にして刊行する。『ちんちん千鳥のなく声は』日本人が聴いた鳥の声―（大修館書店）、『犬は「びよ」と鳴いていた―日本語は擬音語・擬態語が面白い―（光文社）、『日本語の歴史』（岩波書店）は、その産物。むろん、これらの本も著作集に収めてある。

著作集全巻は、研究者のみならず、一般の方々にも知ってほしい、楽しんでほしい、という気持ちから編まれている。どうかあなたも手に取って気に入った頁から読み始めていただきたい。

二〇二〇年八月二〇日

山口仲美

5 オノマトペの歴史Ⅰ

二〇一九年一〇月刊
七二二頁

著作集5・6『オノマトペの歴史』二巻は、オノマトペ（＝擬音語・擬態語）のさまざまな性質や史的推移を明らかにした論文やエッセイを収録。

Ⅰ部は、『オノマトペの種々相』。『源氏物語』や『今昔物語集』、狂言やコミックなど作品別・ジャンル別にとらえた時に顕著に現われるオノマトペの特色・機能を解明。研究のエキスをぎゅっと詰めこんだ二〇のコラムも、おすすめ。

Ⅱ部は、『オノマトペの史的推移』。語彙・語音構造・意味・語法などの面からオノマトペの史的推移を追究。男女の泣き方を表すオノマトペ、動物の声を写す擬音語、楽器の音を表す擬音語など、興味津々の史的推移が解き明かされる。

Ⅲ部は、『おべんちゃら』などの語史。「いちやもん」「おべんちゃら」「どんぶり」「パチンコ」などオノマトペにルーツを持つと思われる言葉を対象に、その語史を追究。びっくりするような言葉のルーツが明らかに。

6 オノマトペの歴史Ⅱ

二〇一九年一二月刊
六一六頁

著作集6『オノマトペの歴史Ⅱ』は、オノマトペ（＝擬音語・擬態語）のうち、鳥の鳴き声や獣の声を写す言葉の推移の解明に特化した巻。

Ⅰ部は、『ちんちん千鳥のなく声は』。カラスやウグイスなど一二種類の鳥の鳴き声を写す擬音語の歴史を辿る。現代人が予想もしなかったような鳴き声から、その時代の人々の暮らしや民話・民間信仰まで解明されてゆく。

Ⅱ部は、『犬は「びよ」と鳴いていた』。時代とともに推移する擬音語・擬態語の一般的な性格を明らかにし、犬や猫、牛などの獣の声の変化とその原因を追究。日本人独特の感性と文化が光る予想外に楽しい話がいっぱい。

Ⅲ部は、『オノマトペ研究余滴&エッセイ』。妖しげな言葉、「ちんちんかもかも」はどこから出て来た言葉？ 「ひゅうどろどろ」は、なぜお化けの出る合図に？ オノマトペがあるからこそ可能になる豊かな日本語の世界がここに。

7 現代語の諸相Ⅰ

二〇二〇年五月刊
八三〇頁

著作集7『現代語の諸相Ⅰ』は、若者言葉・あだ名・広告表現・テレビの言葉などの現代語をテーマにした著書・論文を中心としている。

Ⅰ部は、『若者言葉に耳をすませば』。若者言葉はどんな特質を持っているのか？ 本音全開の座談会を中心に、若者言葉を創りだす方式・特色を実証的に追究していく。

Ⅱ部は、『ネーミングと広告』。命名行為の秘密を解くカギの詰まった「あだ名」。傑作な「あだ名」の条件とは？ また、新聞・ラジオ・テレビにおける広告表現の推移も解明。

Ⅲ部は、『テレビの言葉』。刻々と変わりゆく言葉の先端を視聴者の立場とテレビを作る立場からとらえている。どうかあなたもテレビで出題された問題を解いていただきたい。

Ⅳ部は、『現代語の問題&エッセイ』。日本語教育や敬語表現などに関する論を収録。滅入っている人を元気にさせるのは「言葉の力」。そんなエッセイも最後に収めておいた。

8 現代語の諸相Ⅱ

二〇二〇年九月刊
七四〇頁

著作集8『現代語の諸相Ⅱ』は、ユニークな言葉、中国人や医者とのコミュニケーションをとりあげ、エッセイタッチで書いた単行本を収録している。

Ⅰ部は、『言葉の探検』。ドキッとするような七二の言葉や表現をとりあげ、その特性を解明。冒頭に付いている問題を解いてから本文に読み進むと、論旨が一層明快に。

Ⅱ部は、『言葉の先生、北京を行く』。中国人の大学教師・リーさんを中心に、彼らのコミュニケーション術やその能力の高さにたじたとする話を収録。

Ⅲ部は、『大学教授がガンになってわかったこと』。命に係わる選択を、どのようなコミュニケーションで解決したのか。納得のいく治療を受けるための患者の心得を伝授。

Ⅳ部は、『身辺エッセイ&経歴』。身の回りで起きた出来事、私の出会ったステキな先生、日々の思いなどを綴る。最後に、著者のこれまでの歩みを網羅した経歴を収めた。